

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017		
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ひまわりの郷:ユニットA		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山字直洲131-1		
自己評価作成日	平成30年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、各居室が利用者の方々ゆったりと過ごせるように、プライバシーが守れる完全独立型となっています。  
各居室には、トイレ、温水洗面台、冷暖房、介護用ベッド、タンス等が完備されています。  
また、各居室に専用のベランダも付いています。  
ホーム内も家庭的な雰囲気です。『信頼できる家族』を目標にしながら、『異体同心』を理念に支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から7年目を迎え(平成23年にAユニット、平成24年にBユニット)、事業所理念「異体同心」「地域密着」「利用者本位」を掲げ、毎月職員会議で確認している。近くに国道113号線ができて、幹線道路沿いにコンビニやホームセンター、薬局が開店し、買い物など利用者の馴染みの場所になっている。建物は平屋作りでAユニットとBユニットが別々に中央の広場を挟んで対面式に建てられている。建物周辺も広く、陽当りもよく、屋根に太陽光パネルが設置されており、非常災害の備えにもなっている。居室と居室の間にウッドデッキや休憩スペースを設けるなど、プライバシーが守られ、快適な生活を過ごせるように配慮されている。褥瘡ができた状態で退院してきた利用者が、看護師の指導を受け職員の適切なケアで、褥瘡が完全に治癒した事例もある。介護の質向上に向けて、日頃のケアに職員が努力している様子がうかがえた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者GHひまわりの郷 ）「ユニット名： A 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念を掲げており、職員会議等で確認、共有しています。	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」の事業所理念を毎月職員会議で確認している。これを基に各ユニットの理念や目標を検討中である。利用者への接し方など常に理念に立ち返ってケアを行っている。	理念を、利用者・家族にも分かりやすく、馴染みやすくなるよう工夫し検討する事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の「班」へいれていただき、回覧板を通して隣組の知らせを受け、地域の奉仕作業や地域の防災訓練に参加しています。	町内会に加入し、地域の清掃活動や防災訓練に参加している。事業所に地区の「懐メロ愛好会」のボランティアや近所の人々が訪問したり、野菜の差し入れがあるなど地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ向けた勉強会は実施していないが、今後運営推進会議等を活用して検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々へ、運営状況等について説明し、理解を深めていただけるように質問にも丁寧に答えています。	奇数月の月末に開催し、参加者は区長、役場保健福祉課地域包括支援班職員、婦人会会長、地域代表（元婦人会長、隣人）、民生委員、家族、職員である。家族から「夏祭りは利用者にとって負担では」との意見や地域住民から防災訓練への参加要請、行政からは認知症の講師依頼などの話があり、実質的な情報提供や意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場保健福祉課地域包括支援班職員に参加いただき、こちらからは管理者が町の地域包括ケア推進会議委員として出席する等、協力関係の構築に努めています。	地域包括ケア推進会議開催時には、管理者が参加している。運営推進会議には町職員が参加している。町主催の認知症カフェにも参加し、認知症の家族の人たちと交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において「身体拘束及び高齢者虐待について」を取り上げ、正しい知識、理解を得る為に継続して行っています。	身体拘束及び高齢者虐待について、具体的な事例を取り上げた内部研修や、外部研修を受け伝達研修をしている。職員が交代で講師を担当している。玄関の施錠は夜7時から翌朝6時までとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会を開いたが、更なる理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり説明し、理解していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で意見、要望等があれば吸い上げて、運営に反映させる努力をしています。	家族の意見や要望は運営推進会議や来所時に聞いている。事業所として気軽に話しやすい環境作りに努め、意見要望を運営に反映するように努めている。利用者の服薬に関して家族から相談があり、対応した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議の中で話し合い、意見等を聞き、業務関係やホームの運営等に反映させています。	毎月1回、時間外勤務扱いで全職員が出席し会議を開催している。福利厚生や勤務体制についての意見要望などが出されている。リフト浴がBユニットにはあるが、Aユニットにも設置して欲しいとの要望や、さらに働きやすくなるよう業務改善についても意見が出され検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝ホームに顔を出し、職員から直接話を聞く機会があり、何かがあれば密に電話でのやり取りも行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人材不足の為、交流する機会を作れていないが、今後検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からゆっくり話を聞いたりしながら、安心と安全を優先に考え、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや関係機関等と連携を取り、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人のホームでの生活の様子を説明し、より理解を深めていただき、共にご本人を支えていく関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望により随時、家族の協力を得て自宅等への外出や面会、連絡を行い、関係が途切れないように努めています。	家族と一緒に墓参りや自宅へ出かけたり、家族が面会に来訪しやすいように支援している。ユニット間の交流が、馴染みの人との交流に繋がっている。利用者の希望で近所の理・美容院の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、雑談等を通して利用者間の交流を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族の相談に応じたり、家族の了解を得て見舞いや面会等を行っています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望、意向に添える様に努めています。	「申し送りノート」や「気づきノート」を活用し利用者の情報の共有を図り、思いや意向の把握に努め、ケアに活かしている。青春時代に戻って当時の生活ぶりを楽しそうに繰り返し語ってくれる利用者もおり、会話の中から思いを把握し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りをはじめ、入居時や入居後もご本人やご家族等より聞き取り等を継続しながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録、会話等から得た情報を職員間で共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関わっている職員の意見を聞きながら話し合いを持ち、ご本人、ご家族からの意見も聞き介護計画を作成しています。	家族からの要望や「申し送りノート」や「気づきノート」の情報をもとに、職員の意見も反映し介護計画を作成している。3ヶ月に1回ケース検討会議を実施し、6ヶ月に1回モニタリングをして介護計画を見直し、家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りや申し送りノートを活用しながら情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望により、訪問医療マッサージを利用していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパー等で買い物をしたり、地域の文化祭に作品を出品したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はありますが、ご本人、ご家族の希望により今までかかっていた主治医に継続して診ていただいている方もいます。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として、受診は職員が同行している。受診結果は「受診ノート」や「看護記録ノート」に記入し、家族には来所時に報告している。週2日看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を申し送り、看護師も利用者の状態の把握に努めています。状況に応じてかかりつけ医との連携も図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族との連絡を密にし、ご本人の状態が安定後、早期に退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は経験しておりませんが、重度化した場合における対応の指針についてはご家族へ説明しております。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者と家族に説明している。事業所として、看護師との24時間連絡体制は行っているが、往診体制がないため訪問看護ステーションや往診医との連携体制は取れていない。急変時は救急車で病院へ搬送する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署に依頼し、全職員が普通救命講習を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練を行い避難方法を身につけられるよう努めています。前年度末にスプリンクラーも設置しました。	火災と地震対応マニュアルはあるが、風水害マニュアルがない。年2回避難訓練を行い、内1回は消防署立ち合いで訓練し指導や助言を受けている。運営推進会議で地域住民の参加も議題にしている。自動通報システムは、隣の社長宅や管理者、近所の職員へ繋がるようにしている。非常食は4～5日分備蓄してある。	事業所は、風の強い場所に位置しており、災害発生時に備えて、風水害マニュアルを作成する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが十分配慮しています。また、生活歴等にも配慮し話しかけ方等にも気を付けています。	接遇やプライバシー保護、権利擁護などを「5W3H」にそって研修し、実践に活かしている。呼び方は、苗字を「〇〇さん」と呼んでいるが、本人や家族の希望で「先生」と呼んでいる利用者もいる。声かけの仕方にも配慮し、遠くから大きい声を出さずに、近くへ行って優しく話かけるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望等を表すことが出来ない方に対しては、表情や仕草等から判断し、その方に合わせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調やペースに合わせて職員間で連絡を取り合い介護を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は近所の理容店に依頼して来ていただいています。服装は個人の希望の物を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に応じて、畑に旬の野菜を採りに行く、干し柿作りや枝豆を剥いてもらう等出来る事をしていただいています。	食事は生協などからの宅配を利用し、職員が利用者の希望や特別食に配慮しながら、献立や調理を行っている。行事食として、おはぎやお弁当、おせち料理などを利用者と一緒に作ったりする事もある。栄養士の資格を持っている職員がいるので、今後、献立などの相談ができる体制を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態等を把握し、食べ易い様に提供しています。水分補給についても好みの物を出したり、声掛けを多くする等して水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところは行っていただくようにしていますが、後に職員が義歯洗浄剤や洗口液を使用して介助する方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基にパターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援しています。意思表示が出来ない方には表情や仕草から察知しトイレに誘導しています。	排泄チェック表を活用し、各部屋にあるトイレで一人ひとりに合わせた支援をしている。夜間は家族の了解を得て離床センサーを利用し支援をしている。日中はリハパンやパットを使用している。トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより便秘時には水分補給や体操、個々の処方薬等を勧め、乳製品等を提供する等して予防、解消に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はしているが、随時ご本人の体調、希望等に応じて対応しています。入浴日以外は足浴を行っています。	基本は週3回、午後に入浴の支援をしている。入浴のない日は足浴をしている。日曜日は全員が足浴している。入浴を嫌がる利用者には、声かけを工夫し入浴へ誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態に合わせた対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は何時でも確認で見ようファイルしており、体調の変化等は申し送りを行い対応しています。状態に応じ、ご家族、看護師に報告、受診する等の対応を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状況や希望に合わせた時間を過ごして頂けるよう支援しています。また、家族も参加しての芋煮会や紅葉ドライブ等も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、希望を聞きながら日光浴や散歩、ドライブ等を行っています。	年間計画にそってお花見や森林浴、紅葉狩りなどにドライブへ出かけている。事業所には車イス対応の車両があり、多くの利用者が出かけられるように支援している。天候や体調に合わせ、日常的には、広い敷地内や周辺のひまわり畑を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、ご家族と相談しながら対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは木の温もりが感じられる造りになっており、季節により畳コーナーに炬燵を設置する等居心地の良い場所づくりを行っています。	リビングは天窓があり、日当たりもよく、明るい。大きな窓から山々が見え、四季を感じる事ができる。加湿器や洗濯物を干すなどして、湿度を管理している。手作りの日めくりカレンダーや季節ごとの貼り絵や吊るし雛が飾られていた。畳敷きの小上がりに炬燵があり、寛げる場所として配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチ、談話室にテーブルとイスを設置して、面会時やお茶会、日光浴に使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた食器や小物、写真等を持参していただいています。また、入居後も状況に応じてご本人やご家族と相談しながら対応しています。	各居室の入口に、社長が作った木製の草花の表札がかけてある。大きく名前を書いて解りやすいように表示をしている居室もある。トイレやエアコン、洗面台、防災カーテン、整理ダンス、ベッドが備え付けてある。本人の希望で、厚手のマットレスに布団を使用している利用者もいる。掃除は早番の職員が担当している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全には十分配慮しています。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017		
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ひまわりの郷:ユニットB		
所在地	宮城県伊具郡丸森町館矢間館山字直洲131-1		
自己評価作成日	平成30年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、各居室が利用者の方々ゆったりと過ごせるように、プライバシーが守れる完全独立型となっています。  
各居室には、トイレ、温水洗面台、冷暖房、介護用ベッド、タンス等が完備されています。  
また、各居室に専用のベランダも付いています。  
ホーム内も家庭的な雰囲気です。『信頼できる家族』を目標にしながら、『異体同心』を理念に支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から7年目を迎え(平成23年にAユニット、平成24年にBユニット)、事業所理念「異体同心」「地域密着」「利用者本位」を掲げ、毎月職員会議で確認している。近くに国道113号線ができて、幹線道路沿いにコンビニやホームセンター、薬局が開店し、買い物など利用者の馴染みの場所になっている。建物は平屋作りでAユニットとBユニットが別々に中央の広場を挟んで対面式に建てられている。建物周辺も広く、陽当りもよく、屋根に太陽光パネルが設置されており、非常災害の備えにもなっている。居室と居室の間にウッドデッキや休憩スペースを設けるなど、プライバシーが守られ、快適な生活を過ごせるように配慮されている。褥瘡ができた状態で退院してきた利用者が、看護師の指導を受け職員の適切なケアで、褥瘡が完全に治癒した事例もある。介護の質向上に向けて、日頃のケアに職員が努力している様子がうかがえた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者GHひまわりの郷 ）「ユニット名： B 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念を掲げており、職員会議等で確認、共有しています。	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」の事業所理念を毎月職員会議で確認している。これを基に各ユニットの理念や目標を検討中である。利用者への接し方など常に理念に立ち返ってケアを行っている。	理念を、利用者・家族にも分かりやすく、馴染みやすくなるよう工夫し検討する事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の「班」へいれていただき、回覧板を通して隣組の知らせを受け、地域の奉仕作業や地域の防災訓練に参加しています。	町内会に加入し、地域の清掃活動や防災訓練に参加している。事業所に地区の「懐メロ愛好会」のボランティアや近所の人々が訪問したり、野菜の差し入れがあるなど地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ向けた勉強会は実施していないが、今後運営推進会議等を活用して検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々へ、運営状況等について説明し、理解を深めていただけるように質問にも丁寧に答えています。	奇数月の月末に開催し、参加者は区長、役場保健福祉課地域包括支援班職員、婦人会会長、地域代表（元婦人会長、隣人）、民生委員、家族、職員である。家族から「夏祭りは利用者にとって負担では」との意見や地域住民から防災訓練への参加要請、行政からは認知症の講師依頼などの話があり、実質的な情報提供や意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場保健福祉課地域包括支援班職員に参加いただき、こちらからは管理者が町の地域包括ケア推進会議委員として出席する等、協力関係の構築に努めています。	地域包括ケア推進会議開催時には、管理者が参加している。運営推進会議には町職員が参加している。町主催の認知症カフェにも参加し、認知症の家族の人たちと交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において「身体拘束及び高齢者虐待について」を取り上げ、正しい知識、理解を得る為に継続して行っています。	身体拘束及び高齢者虐待について、具体的な事例を取り上げた内部研修や、外部研修を受け伝達研修をしている。職員が交代で講師を担当している。玄関の施錠は夜7時から翌朝6時までとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会を開いたが、更なる理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり説明し、理解していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で意見、要望等があれば吸い上げて、運営に反映させる努力をしています。	家族の意見や要望は運営推進会議や来所時に聞いている。事業所として気軽に話しやすい環境作りに努め、意見要望を運営に反映するように努めている。利用者の服薬に関して家族から相談があり、対応した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議の中で話し合い、意見等を聞き、業務関係やホームの運営等に反映させています。	毎月1回、時間外勤務扱いで全職員が出席し会議を開催している。福利厚生や勤務体制についての意見要望などが出されている。リフト浴がBユニットにはあるが、Aユニットにも設置して欲しいとの要望や、さらに働きやすくなるよう業務改善についても意見が出され検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝ホームに顔を出し、職員から直接話を聞く機会があり、何かがあれば密に電話でのやり取りも行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人材不足の為、交流する機会を作れていないが、今後検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からゆっくり話を聞いたりしながら、安心と安全を優先に考え、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや関係機関等と連携を取り、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人のホームでの生活の様子を説明し、より理解を深めていただき、共にご本人を支えていく関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望により随時、家族の協力を得て自宅等への外出や面会、連絡を行い、関係が途切れないように努めています。	家族と一緒に墓参りや自宅へ出かけたり、家族が面会に来訪しやすいように支援している。ユニット間の交流が、馴染みの人との交流に繋がっている。利用者の希望で近所の理・美容院の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、雑談等を通して利用者間の交流を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族の相談に応じたり、家族の了解を得て見舞いや面会等を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望、意向に添える様に努めています。	「申し送りノート」や「気づきノート」を活用し利用者の情報の共有を図り、思いや意向の把握に努め、ケアに活かしている。青春時代に戻って当時の生活ぶりを楽しそうに繰り返し語ってくれる利用者もおり、会話の中から思いを把握し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りをはじめ、入居時や入居後もご本人やご家族等より聞き取り等を継続しながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録、会話等から得た情報を職員間で共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関わっている職員の意見を聞きながら話し合いを持ち、ご本人、ご家族からの意見も聞き介護計画を作成しています。	家族からの要望や「申し送りノート」や「気づきノート」の情報をもとに、職員の意見も反映し介護計画を作成している。3ヶ月に1回ケース検討会議を実施し、6ヶ月に1回モニタリングをして介護計画を見直し、家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りや申し送りノートを活用しながら情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望により、訪問医療マッサージを利用していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパー等で買い物をしたり、地域の文化祭に作品を出品したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はありますが、ご本人、ご家族の希望により今までかかっていた主治医に継続して診ていただいている方もいます。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として、受診は職員が同行している。受診結果は「受診ノート」や「看護記録ノート」に記入し、家族には来所時に報告している。週2日看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を申し送り、看護師も利用者の状態の把握に努めています。状況に応じかかりつけ医との連携も図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族との連絡を密にし、ご本人の状態が安定後、早期に退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は経験しておりませんが、重度化した場合における対応の指針についてはご家族へ説明しております。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者と家族に説明している。事業所として、看護師との24時間連絡体制は行っているが、往診体制がないため訪問看護ステーションや往診医との連携体制は取れていない。急変時は救急車で病院へ搬送する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署に依頼し、全職員が普通救命講習を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練を行い避難方法を身につけられるよう努めています。前年度末にスプリンクラーも設置しました。	火災と地震対応マニュアルはあるが、風水害マニュアルがない。年2回避難訓練を行い、内1回は消防署立ち合いで訓練し指導や助言を受けている。運営推進会議で地域住民の参加も議題にしている。自動通報システムは、隣の社長宅や管理者、近所の職員へ繋がるようにしている。非常食は4～5日分備蓄してある。	事業所は、風の強い場所に位置しており、災害発生時に備えて、風水害マニュアルを作成する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが十分配慮しています。また、生活歴等にも配慮し話しかけ方等にも気を付けています。	接遇やプライバシー保護、権利擁護などを「5W3H」にそって研修し、実践に活かしている。呼び方は、苗字を「〇〇さん」と呼んでいるが、本人や家族の希望で「先生」と呼んでいる利用者もいる。声かけの仕方にも配慮し、遠くから大きい声を出さずに、近くへ行って優しく話かけるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望等を表すことが出来ない方に対しては、表情や仕草等から判断し、その方に合わせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調やペースに合わせて職員間で連絡を取り合い介護を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は近所の理容店に依頼して来ていただいています。服装は個人の希望の物を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に応じて、畑に旬の野菜を採りに行く、干し柿作りや枝豆を剥いてもらう等出来る事をしていただいています。	食材は生協などからの宅配を利用し、職員が利用者の希望や特別食に配慮しながら、献立や調理を行っている。行事食として、おはぎやお弁当、おせち料理などを利用者と一緒に作ったりする事もある。栄養士の資格を持っている職員がいるので、今後、献立などの相談ができる体制を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態等を把握し、食べ易い様に提供しています。水分補給についても好みの物を出したり、声掛けを多くする等して水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところは行っていただくようにしていますが、後に職員が義歯洗浄剤や洗口液を使用して介助する方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基にパターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援しています。意思表示が出来ない方には表情や仕草から察知しトイレに誘導しています。	排泄チェック表を活用し、各部屋にあるトイレで一人ひとりに合わせた支援をしている。夜間は家族の了解を得て離床センサーを利用し支援をしている。日中はリハパンやパットを使用している。トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより便秘時には水分補給や体操、個々の処方薬等を勧め、乳製品等を提供する等して予防、解消に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はしているが、随時ご本人の体調、希望等に応じて対応しています。入浴日以外は足浴を行っています。	基本は週3回、午後に入浴の支援をしている。入浴のない日は足浴をしている。日曜日は全員が足浴している。入浴を嫌がる利用者には、声かけを工夫し入浴へ誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態に合わせた対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は何時でも確認で見ようファイルしており、体調の変化等は申し送りを行い対応しています。状態に応じ、ご家族、看護師に報告、受診する等の対応を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状況や希望に合わせた時間を過ごして頂けるよう支援しています。また、家族も参加しての芋煮会や紅葉ドライブ等も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、希望を聞きながら日光浴や散歩、ドライブ等を行っています。	年間計画にそってお花見や森林浴、紅葉狩りなどにドライブへ出かけている。事業所には車イス対応の車両があり、多くの利用者が出かけられるように支援している。天候や体調に合わせ、日常的には、広い敷地内や周辺のひまわり畑を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、ご家族と相談しながら対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは木の温もりが感じられる造りになっており、季節により畳コーナーに炬燵を設置する等居心地の良い場所づくりを行っています。	リビングは天窓があり、日当たりもよく、明るい。大きな窓から山々が見え、四季を感じる事ができる。加湿器や洗濯物を干すなどして、湿度を管理している。手作りの日めくりカレンダーや季節ごとの貼り絵や吊るし雛が飾られていた。畳敷きの小上がりに炬燵があり、寛げる場所として配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチ、談話室にテーブルとイスを設置して、面会時やお茶会、日光浴に使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた食器や小物、写真等を持参していただいています。また、入居後も状況に応じてご本人やご家族と相談しながら対応しています。	各居室の入口に、社長が作った木製の草花の表札がかけてある。大きく名前を書いて解りやすいように表示をしている居室もある。トイレやエアコン、洗面台、防災カーテン、整理ダンス、ベッドが備え付けてある。本人の希望で、厚手のマットレスに布団を使用している利用者もいる。掃除は早番の職員が担当している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全には十分配慮しています。		